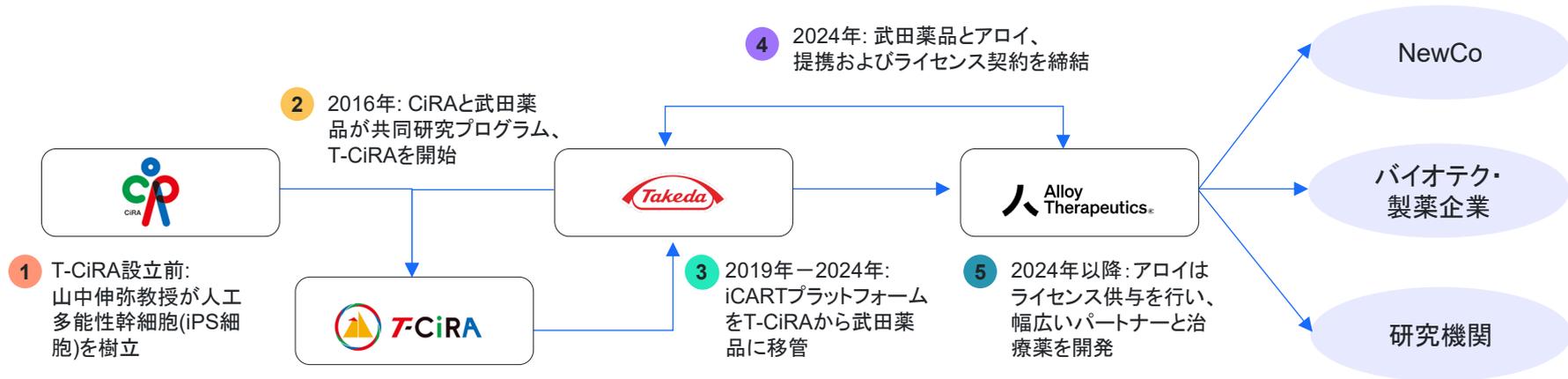


# iCAR-Tの進化とアロイ・セラピューティクスが描く将来の展望



1

山中伸弥教授がiPS細胞を樹立。ヒトiPS細胞は、あらゆる種類のヒト細胞に分化できる可能性(多能性)があり、病気や機能不全の臓器を置き換えるといった再生医療の可能性を広げるとして、大きな期待を集めた

2

武田薬品とCiRAは、iPS細胞の治療薬への応用を目的とした10年間の共同研究(T-CiRA)を開始。金子新教授のチームは、iPS細胞からセントラルメモリー様T細胞に分化させる技術を開発し、動物モデルでがん治療法としての有効性を証明

3

iPS細胞由来CAR-T細胞プラットフォーム(iCAR-T)の研究は開発のため武田薬品に移管

4

アロイは武田薬品からiCAR-Tプラットフォームを導入し、製薬会社、バイオテック企業、ベンチャーとの提携を通じてiCAR-Tを活用した新薬を開発。武田薬品は今後もiCAR-Tプラットフォームへのアクセスを保ち将来の開発に活かす

5

本契約を通じ、アロイは、パートナーに業界初一貫通貫のiCAR-Tの創薬・開発支援サービスを提供:

**最高水準のサイエンス**  
**成熟したCMCプロセス**